

EA-03259  
2003年2月17日

御中

ヒロセ電機株式会社  
技術本部 技術管理課  
責任者 前田 太門  
担当者 佐々木 梢

製品安全データシート (MSDS) の提出

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
いつも変わらぬお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。  
さて、ご依頼のありました、下記製品に使用されている絶縁材料の製品安全データシートを  
ご送付申し上げます。

敬 具

記

<添付書類>

日本ジーイープラスチックス バロックス420SE0

<対象製品名>

HIF3BD-10PA-2.54DS	HIF3BB-50PA-2.54DSA
HIF6-32PA-1.27DS	HIF3BB-60PA-2.54DSA
HIF6-40PA-1.27DS	HIF3BA-10D-2.54R
HIF3BA-14PA-2.54DS	HIF3BB-50D-2.54R
HIF6-50PA-1.27DS	HIF3BA-14D-2.54R
HIF3BA-20PA-2.54DS	HIF3BB-60D-2.54R
HIF6-60PA-1.27DS	HIF3BA-20D-2.54R
HIF3BA-26PA-2.54DS	HIF6-32D-1.27R
HIF3BA-40PA-2.54DS	HIF3BA-26D-2.54R
HIF3BD-10PA-2.54DSA	HIF3BA-30D-2.54R
HIF3BA-20PA-2.54DSA	HIF6-50D-1.27R
HIF3BA-30PA-2.54DSA	HIF6-60D-1.27R
HIF3BA-40PA-2.54DSA	HIF3BA-40D-2.54R

以上

## 製品安全データシート

## 「製造者情報」

本社：日本ジーイープラスチック株式会社 / 発行：テクニカル アンサー センター  
 東京都中央区日本橋浜町2-35-4 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘2-2  
 Tel 03-5695-4861 / Fax 03-5695-4840 Tel 0285-80-2370 / Fax 0285-80-2132  
 担当：テクノロジーセンター  
 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘2-2  
 Tel 0285-80-2300 / Fax 0285-80-2325 発行日 : 2002年10月29日

「製品名」 (商品名) ポリエステル樹脂 VALOX® 420SE0

## 「物質の特定」

単一品、混合製の区別 : 混合品  
 主成分 ポリブチレンテレフタレート  
 難燃材 テトラブROMビスフェノールAカーボネイト及び三酸化アンチモン  
 強化材 ガラスファイバー

化学式 : 主成分 ポリブチレンテレフタレート (C<sub>12</sub>H<sub>12</sub>O<sub>4</sub>)<sub>n</sub>

官報告示整理番号 化審法 : 7-1021 ポリブチレンテレフタレート  
 7-740 テトラブROMビスフェノールAカーボネイト  
 1-543 三酸化アンチモン  
 ガラスファイバー

安衛法 : 該当せず。

CAS No. : 30965-26-5 ポリブチレンテレフタレート  
 71342-77-3 テトラブROMビスフェノールAカーボネイト  
 1309-64-4 三酸化アンチモン  
 65997-17-3 ガラスファイバー

国連分類 : 該当せず。

国連番号 : 該当せず。

「危険性・有害性」 分類基準に該当しない。

## 「応急処置」

目に入った場合 : 先ず数分間多量の水で洗流し（コンタクトレンズをしている場合ははずして）、異常があれば眼科医の診断及び手当を受ける。  
 皮膚に付着した場合 : 水、石鹼を使用して付着した部分をよく洗流す。  
 吸入した場合 : 粉塵等を吸い込んだ場合、よくうがいをし、新鮮な空気を吸う等の処置をする。異常を感じるようであれば、医師の診断及び手当を受ける。  
 飲み込んだ場合 : できるだけ吐き出し、異常を感じるようであれば医師の手当を受ける。

## 「火災時の処置」

- 消火方法 : 一般の火災と同じ消火方法を用いることができる。
- 消火剤 : 注水、水噴霧、各種消火器等を使用する事ができるが、冷却効果の観点から、水の使用が最も好ましい。一般的に、樹脂が燃焼した時は、炭酸ガスやドライケミカルだけでの消火ではわずかな火が残り消火不完全となる可能性がある。

## 「漏出時の処置」 \*1

- : 道路や床にこぼした場合は、転倒の恐れがあるので集めて処分する。
- : 流出すると環境汚染の恐れがあるので、露出分は全て回収する。

## 「取り扱い及び保管上の注意」

- 取り扱い : 加工時は、発生するガス（検出限界程度のトリクロロエチレン、HBr等を含んでいる可能性がある）を吸引しないようにすると共に溶融した高温の樹脂に触れないようにする。
- : 発生したガスが、ダクト等に付着してグリース状になったものは、皮膚に付着したとき、刺激を与える事があるので、定期的に取り除く。
- : 空気輸送する場合や粉塵の発生する場所では、粉塵の吸入防止措置を採ると共に爆発防止対策を行う。
- 保管 : 乾燥した、直射日光が当たらない場所で、熱源、発火源から離れた場所に保管する。静電気災害を防止する対策をとる。

## 「暴露防止措置」

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 : 設定されていない。
- 設備対策 : 高温加工時に空气中に開放される部分でガスが発生したり、二次加工時に粉塵が発生したりするので、快適な作業環境を得るために、局所排気設備等を設ける事が望ましい。
- 保護具 : 呼吸保護具 : 着用が望ましい。  
保護眼鏡 : 着用が望ましい。  
保護手袋 : 着用が望ましい。  
保護衣 : 着用が望ましい。

## 「物理的・化学的性質」

- 外観等 : ペレット
- 臭気 : 無し。
- 沸点 : 該当しない。
- 融点 : 明確な融点は示さない。220℃付近で軟化する。
- 蒸気圧 : 無視しうる。
- 揮発性 : 無視しうる。
- 比重 : >1 (20/4℃)
- 初留点 : 該当しない。
- 溶解度 : 水に不溶。 ;ほとんどの通常の有機溶媒に不溶。
- その他 : --

## 「危険性情報」

## 安定性・反応性

- 引火点 : 360℃以上。 (ASTM D-1929)  
 発火点 : 360℃以上。 (ASTM D-1929)  
 爆発限界 : 知見無し。  
 可燃性 : 酸素指数26以上の物質にランクされ、不燃性、難燃性を有するものとして扱われる。

発火性 : 無し。(自然発火及び水との反応性。)

酸化性 : 無し。

自己反応性・爆発性 : 無し。

- 粉塵爆発性 : 最小着火エネルギー (ミリジュール) データー無し。  
 : 最大爆発圧力 (kg/cm<sup>2</sup>) データー無し。  
 : 粉塵の爆発下限界濃度 (g/m<sup>3</sup>) データー無し。  
 : 限界酸素指数 (%O<sub>2</sub>) データー無し。

安定性・反応性 : 常温・常圧下で安定である。

その他 : --

## 「有害性情報」

皮膚腐蝕性 : 無し。

刺激性 (皮膚、眼) : 加熱、乾燥、溶融時に発生するガスは、皮膚、眼を刺激する事がある。  
(主としてトリクロロプロパン。)

感作性 : 知見無し。

急性毒性 \*2 : 複数のラットに各5gずつを一服で給餌したが、死んだものも中毒症状を示したものも観察されなかった。(LD<sub>50</sub>(rat) > 5 g/kg)

亜急性毒性 : 知見無し。

慢性毒性 : 知見無し。

がん原性 : 知見無し。

変異原性 : 知見無し。  
(微生物、染色体異常)

生殖毒性 : 知見無し。

催奇形性 : 知見無し。

その他 : --

(水と反応して有害なガスを発生する事を含む。)

## 「環境影響情報」

分解性 : データー無し。

蓄積性 : データー無し。

魚毒性 : データー無し。

その他 : --

\* 3 現時点では、顕著な環境上の問題を生ずる事は考えられない。

## 「廃棄上の注意」

埋め立てる時は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、公認の産業廃棄物業者もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託して処理をする。  
焼却する場合は、焼却設備を用いて、大気汚染防止法等の諸法令に適合した処理を施して焼却する。

## 「輸送上の注意」

空気輸送を行う場合は、静電気防止対策を採る。  
梱包袋が破れないように、水濡れ、乱暴な取り扱いを避ける。もし破袋してペレットが散乱した場合は、滑って転倒しないように注意する。

## 「適用法令」

労働安全衛生法	:	危険物	:	該当しない。
		有機溶剤	:	該当しない。
		特定化学物質	:	該当しない。
		変異原性物質	:	該当しない。
消防法	:	危険物	:	該当しない。
		指定可燃物	:	該当しない。
毒物及び劇物取り締まり法	:	毒物	:	該当しない。
		劇物	:	該当しない。
船舶安全法	:		:	該当しない。
化学物質管理促進法	:	指定物質	:	該当する。三酸化アンチモン 3.2%以下含有。

## 「その他（引用文献等）」

- \* 1 樹脂ペレット流出防止マニュアル プラ工連 平成5年2月
- \* 2 GE資料
- \* 3 GE資料

- 注) ・以上の情報は新しい知見に基づいて改訂される場合があります。  
 ・記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理的性質、危険、有害性情報に関しては、いかなる保証をするものではありません。  
 ・注意事項は通常の手続きを前提としたものなので、特殊な取り扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施した上で御使用ください。